【道徳】素材集

あなたたちへのパス

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

はじめに

皆さんは、クラスの中でどういう役割をになっているでしょう。
美化係や体育委員といった役目の人もいるでしょうし、
係でなくても大きな声で挨拶ができるようなムードメーカーな人もいるでしょう。
また、誰も気がつかないこと、たとえば花に水やりをするとか、ゴミを拾うとか、
人知れず誰かの役にたっている、という人もいることでしょう。

この本で取り上げたラグビーは、
15人という大勢のメンバーで戦うスポーツです。
スクラムを組むフォワードから、走り回るバックスまで、
体の大きな人が有利なポジションや、
小さくてもすばしっこさを活かせるポジションまで
いろいろな人が特技を活かせる、イギリス発祥のスポーツです。
15人がときに仲間を鼓舞し、助け合い、励まし合いながら試合を進めます。

試合は楕円のボールを奪い合い、走り、
パスやキックをして敵陣に運び、得点を競います。

試合中は激しく体をぶつけあうことも多いので
〝ボールを使った格闘技〟という人もいます。
もちろんルールがあって、違反すればレフリーが厳しく反則をとります。
そんな激しいスポーツでも、紳士（淑女）のスポーツと呼ばれます。

それはなぜでしょうか？

この本を読み終わると、なぜラグビーが紳士のスポーツと
呼ばれるのかが少しわかると思います。

この本はラグビーの試合で実際におこった事実を題材にしていますが、
けっしてラグビーファンのための本ではありません。
それぞれのエピソードから、皆さんが感じたこと、自分だったらどうするか……
などを考えてみてください。そして友達と話し合ってみてください。

この一冊が、仲間と自分を考えるヒントを提供できればうれしいです。

世界一のロッカールーム

■強いチームには必ず、心の支えとなる人がいる

２０１５年、ラグビーのワールドカップ（W杯）で歴史的勝利を重ねた日本代表を支えたのは、前主将の廣瀬俊朗という男でした。スタンドオフや、ウイングもできる万能型ですが、戦力の充実もあり、一度も試合に出ていません。

「そりゃ、悔しいですよ。メンバーじゃないと告げられて、十秒ぐらい、クソッと思って、部屋を出たら切り替えます。人前で嫌な顔は見せません。メンバーから外れても、（日本の勝利のため）次にやるべきことがありますから」

勤務する会社の後輩で日本代表の主将、リーチ・マイケルを陰で支え、チームのコミュニケーションの活性役にもなっていました。練習外では、気持ちを一つにするための試合前の映像を発案したり、チームメイトにさりげなくゴミ拾いを促したり。「小さいことが大事だと思うんです」というのです。じつはW

ラグビーワールドカップ
４年に一度開催され、国の代表チームで世界一を競う世界大会。２０１５年のイングランド大会で日本は強豪・南アフリカに勝利。世界を驚かせた。第１回は１９８７年。２０１９年は日本で開催される。

主将
スポーツで、チームを率いる人。キャプテン。

杯試合後、日本代表は選手たちがロッカールームをきれいに掃除していました。

歴史的勝利の南アフリカ戦のあとは数人だったのが、スコットランド戦ではメンバー外の選手が真っ先に掃除をし始めました。次のサモア戦ではほぼ全員の選手とスタッフが一緒にロッカー室を掃除しました。廣瀬はこう説明します。

「自分たちが使ったロッカーは自分たちできれいにしようということです。僕たちは偉くも何ともない。感謝の気持ちを込めて、掃除をしよう。ちゃんと足元を見ようということですね」

エディー・ジョーンズヘッドコーチや仲間からの信頼度は抜群。ジョーンズ氏がヘッドコーチに就任した２０１２年、「日本の新しい歴史を創ろう」と主将を任されていたことからもそれはわかります。

なぜ廣瀬は主将に選ばれたのでしょう。それはジョーンズ氏が、２０１１年の東日本大震災後のチャリティー試合前夜の廣瀬の姿に感銘を受けたからでした。トップリーグ（社会人）選抜主将の廣瀬はチームメイトを集め、靴磨きの道具を持ち出して、みんなでスパイクを磨いていたのです。おそらく、その時、廣瀬を「メンバーの心の支え」としたジョーンズ氏のW杯メンバー作りは始まっていたのでしょう。

スタンドオフ
ラグビーのポジションで、攻撃や守備の判断を求められることから、司令塔などとも呼ばれる。

ウイング
おもに足の速い人がこのポジションにつく。

ヘッドコーチ
日本では監督と呼ぶが、海外ではヘッドコーチと呼ばれる。

■なぜ、みんなでスパイクを磨いたのか

「スパイクを磨くことで、まず、試合の前の日だということを自分に強く意識できる。ふたつめは、試合前に相手と向き合って並んだとき、相手のスパイクより、自分たちのスパイクがきれいだったら、いい準備してきたと実感でき、自信が持てる。みっつめが、きれいなグラウンド、きれいなスパイクだと、子どもたちが憧れるでしょ。ものを大事にする感謝の気持ちも生まれます。それと、最後にそういう場を作りたかったんです。しょうもない話をしながら、一緒にスパイクを磨く。それが、チームへの忠誠心を高めることにつながります」

廣瀬は続けます。

「あらゆる面でチームは成長しました。一番はマインドセット（心構え）のところです」。最後の最後まで試合出場とチームの勝利を目指す。できる限りの準備をする。最終の米国戦に向けた練習再開の日、真っ先にグラウンドに飛び出したのは廣瀬とリーチでした。

メンバーから外されてもくさりません。

「腹立つなあと思っても、次の役割は絶対にある。全部、勉強なんです。人生において」。

マインドセット
心構え。スポーツでは、試合や練習に対する気持ちや考え方のこと。

この話に登場する廣瀬俊朗によると、日本代表のラグビーチームがロッカーを掃除し始めたのは、２０１５年のワールドカップが初めてのことではなく、元・主将の菊谷崇（２０１１年ラグビーワールドカップに日本代表のキャプテンとして全試合出場。２０１２年には日本のラグビーの最高峰リーグであるトップリーグ通算１００試合出場を達成した）らが、２０１２年ごろから始めていたという。

© JRFU

廣瀬俊朗（ひろせ・としあき）
1981年10月17日生まれ。大阪市吹田（すいた）市生まれ。日本代表キャップ（国際試合の出場回数）28。5歳でラグビーを始め、北野高校在学時に高校日本代表に選出。高校卒業後は慶応大学、東芝ブルーブレイパス等で活躍。高校、大学、社会人、日本代表でキャプテンを務めたことからもわかるとおり人望がある。2007年に日本代表に選出。身長173cm。

© JRFU

リーチ・マイケル（Michael Leitch）
1988年10月7日生まれ。ニュージーランドのクライストチャーチ出身。15歳の時に留学生として来日。札幌山の手高校へ入学。卒業後は東海大学へ進学。2012年に日本人女性と結婚。2013年に日本国籍を取得。ポジションはフォワードで、2015年のラグビーワールドカップ　イングランド大会では日本代表のキャプテンを務めた。日本代表キャップは50。身長190cm。

国歌を高らかに

■ラグビー王国に生まれ、日本を愛したキャプテン

ラグビーの国代表同士の試合では、キックオフ（試合開始）の前に国歌を歌います。２０１５年のラグビーワールドカップで日本代表が南アフリカ代表に勝った試合の前にも両チームの国歌斉唱（こっかせいしょう）が行われました。南アフリカ国歌に続いて、日本代表選手は、全員で大きな口を開けて、「君（きみ）が代（よ）」を歌いました。その姿を見て、日本の多くのラグビーファンは感動しました。

なぜ、感動したのかといえば、日本代表にはいろんな国からきた選手がいたからです。キャプテンのリーチ・マイケルは、ニュージーランド人の父と、フィジー人の母の間に産まれましたが、15歳で来日して日本国籍を取得しました。

ラグビー王国と呼ばれるニュージーランドに暮らしながら、なぜ、リーチは日本にやってきたのでしょうか。それは、中学時代、日本の高校生に出会った

国歌斉唱
ラグビーでは国の代表の試合前に国歌斉唱（皆で歌うこと）が通例となっています。

君が代
日本国国歌。歌詞の原型は10世紀初めに編さんされた「古今和歌集」に見いだされる。曲は１８８０年（明治13年）につけられた。１９９９年に正式に国歌として法制化された。

からです。日本からラグビーを学びにやって来て、リーチの家にホームステイをした高校生が、かっこ良かったのです。

「ラグビーが上手くて、ラグビーを深く考えていました。人間的にもすごく楽しい人たちだった。だから、日本に行ってラグビーをやりたいと思いました」

リーチは札幌山の手高校に留学しました。日本に来て学んだラグビーはとても楽しかった。下宿先の日本人家族も、学校の先生もみんな優しかった。そして、日本のご飯がとてもおいしかったのです。

リーチの実家が火事になったときには、ラグビー部の監督が寄付を募り、ニュージーランドの家に送ってくれました。リーチは「先生や皆さんに恩返ししないといけない」と思いました。それからは、もっと一生懸命練習するようになりました。

「日本に来たことを後悔したことは一度もありません。僕は日本で勉強し、ラグビーをして、いろんな人に応援されているのです」

だから、リーチは大きな声で歌うのです。同じように、トンガ、サモア、オーストラリア、ニュージーランドなどいろんな国籍、人種、民族の選手たちが、応援してくれている人たちのことを思って、君が代を大きな声で歌いました。

■国歌の意味を知るということ

ラグビーは、国代表に選ばれる資格として、国籍を問いません。日本代表になることができる条件は次のみっつです。

「日本で産まれた」、「両親か祖父母の一人が日本で産まれた」、「日本代表に選ばれる前の3年間日本に住んでいた」。

しかし、日本で産まれたからといって、海外でずっとプレーしている選手を突然選ぶことはありません。日本で3年以上プレーし、日本のラグビーをよく理解した選手が選ばれます。日本代表とは、日本人の代表ではなく、日本でラグビーをしている仲間の代表なのです。

「君が代」をみんなで肩を組んで歌う。それはチームの結束力を強めるために大切なことでした。日本語が得意なリーチ・マイケルは、キャプテンとして、君が代の歌詞の意味を知らない海外出身の選手に、その意味を教えました。

「日本代表選手として、国歌の意味を知らずに歌うことは失礼ですから」

トンガ出身のホラニ龍（りゅう）コリニアシは、16歳で来日し、日本の高校でラグビーを始めました。日本の厳しい練習に耐え、逞（たくま）しく成長したホラニは、２００８

ホラニ・龍・コリニアシ
１９８１年10月25日生まれ。トンガ出身のラグビー選手。埼玉工大深谷高校から埼玉工業大学に学ぶ。２００８年から日本代表に選出。身長１８８㎝。

年に日本代表入りしました。

「日本代表にはずっと憧れていました。選ばれたときは本当に嬉しかった。君が代を歌ったときは、泣きそうになりました。僕はトンガの国歌よりも、君が代の方がしっくりくるのです」

君が代の歌詞には、次のような部分があります。

《さざれ石の巌となりて　苔のむすまで》

さざれ石は、小さな石が固まって大きな岩になります。「結束し、団結して、ずっと結びついていこう」という意味と理解することができます。

ホラニは、この歌詞はラグビーそのものだと思いました。

「日本代表は、体は小さいけれど、みんなでまとまれば大きな相手に勝つことができる。そう解釈しました」

日本代表チームに、海外の選手がいるのがおかしい、という声もあります。しかし、彼らは、日本代表であることに誇りを持ち、協力し合って南アフリカを倒し、世界中の人々に勇気を与えました。そして、人種、民族、宗教の垣根を越えた友情で固く結ばれたのです。

敗者のいないノーサイド

■試合が終わっても着がえない選手たち

２００９年全国高等学校ラグビーフットボール大会、通称〝花園〟への出場をかけた福島県大会での準々決勝、磐城高校と安達高校戦でのことでした。

この試合は、接戦の末12対12のままノーサイドとなりました。ラグビーでは試合終了のことを「ノーサイド」と言います。試合が終われば敵も味方もないという意味です。ですからラグビーには野球のように延長戦はもちろん、サッカーのようなＰＫ戦もありません。

では、どうするのか？　抽選です。

結果、優勝候補とされていた磐城高校が抽選で準決勝への出場権を得ました。安達高校の選手たちにとっては、ある意味〝非情〟な抽選でした。負けなかったのに……終わってしまったのです。

決勝戦後、同じ写真におさまった２校のメンバー。

花園
毎年12月末から翌1月の始めにかけて東大阪市の東大阪市花園ラグビー場で開催される高校ラグビーの全国大会。高校野球における「甲子園」のような大会。

ノーサイド
P、14コラム参照。

抽選
高校ラグビーでは延長戦も、サッカーのＰＫ戦にあたるものもありません。次の試合の出場権は抽選で決められます。

予選敗退が決まった安達高校の選手たちは、なぜか他の試合が終わるまで汗だらけになったジャージのままでした。みんな不思議そうに彼らを見ていました。そして最後の試合が終わり、誰もいなくなったグラウンドに安達高校の選手が飛び出していきました。試合さながらにパスをしたりして、走りまわり始めました。何が始まったのか？

■〝ノーサイド〟が単なる言葉ではない理由

これは安達高校ラグビー部の選手たちが〝最後の試合〟に出られなかった控（ひか）えの3年生選手のためにしたことでした。優勝候補と互角（ごかく）の勝負をしたのに〝抽選〟で次に進めなかった選手たち。彼らは、その試合にすら出場できなかった他の仲間のために、ジャージを着替えず〝その時〟を待っていたのです。気がつくと、制服に着替えていた磐城高校の選手やレフリーも加わり、その人数は増えていきました。笑顔と笑い声のなか次々とトライをしていく控え選手たち。

管理が難しい芝のグラウンドを、決められた試合や練習以外に選手が勝手に使うことは許されないはずですが、会場に残っていた主催者や指導者たちは、誰ひとり、彼らを止めようとはしませんでした。

ジャージ
ラグビーのユニフォームのこと。通常はラグビージャージという。

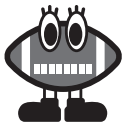
選手達は、まさにラグビーの「ノーサイド」の精神を実践(じっせん)したわけです。厳(げん)密(みつ)に言えば許されない選手たちの行為を、何も言わずに見守っていた大人たちもわかっていたのです、きっと。

二週間後の決勝戦。磐城高校は優勝し全国大会への切符を手にしました。

表彰式の後、グラウンドには笑顔の磐城高校ラグビー部員が。

そして一緒に記念写真におさまる安達高校ラグビー部員たちの姿がありました。

5



ラグビーは仲間をつくるスポーツ

ラグビーでは、試合終了のことを〝ノーサイド〟と呼びます。「試合が終われば敵も味方もなく、仲間だ。」という意味です。

でも、現在は世界的にみると〝フルタイム〟と呼ぶ国の方が多いのも事実です。

前半終了で、ハーフタイム。後半も終わるとフルタイム、ということです。

日本のラグビーでは、ノーサイドということを大事に思っています。力を尽くして戦った相手と、試合後は仲間だという独特の文化が素敵だからです。

ときに命がけのような激しいスポーツだからこそノーサイドという言葉の意味には深い味わいがある、と思いませんか？

© JRFU 2015 photo by H.Nagaoka

2015年９月19日（現地）。イギリスで行われたワールドカップで
南アフリカから歴史的勝利を得た日本代表。

【道徳】素材集　あなたたちへのパス

この本の話を資料とした道徳授業の指導案・ワークシート等が日本ラグビーフットボール協会のサイトからダウンロードいただけます（2016年11月22日～）。授業に、ご家庭での学習にお役立てください。

https://www.rugby-japan.jp/RugbyFamilyGuide/

発行　2016年11月
公益財団法人　日本ラグビーフットボール協会

編集：
普及・競技力向上委員会（熊木陽一郎、永井康隆、森　健、小沼公道、加藤真也、上田雄一、山本巧）
広報・プロモーション委員会（河井敬宜、大歳拡、柿木英人、酒井直人）

執筆者：
「世界一のロッカールーム」松瀬　学（構成　酒井直人）
「敗者のいないノーサイド」杉浦敦＜テレビユー福島＞（構成　河井敬宜）
「国歌を高らかに」村上晃一

デザイン：B.C.（稲野清、草地祐司）
イラスト：草地祐司

JRFU